

病虫害発生予察注意報第 1 号

佐賀県

作物名：果樹全般
病虫害名：果樹カメムシ類



1. 注意報の内容

発生地域：県内全域
発生量：平年より多い

2. 注意報発令の根拠

1) 予察灯での誘殺虫数

(1) 県内 2 カ所に設置している予察灯においては本虫の誘殺虫数は 8 月 3 半旬以降多く推移している（図 1）。

2) ヒノキ樹での発生状況（9 月 4～8 日調査）

(1) 県内 14 地点で行ったヒノキ樹上における寄生状況調査において、本虫の平均寄生成幼虫数は 50.5 頭/5 枝（平年 11.9 頭/5 枝）であり、平年より多い（図 2）。

(2) ヒノキ毬果（きゅうか）1 果当たりの本虫による平均口針鞘数は 26.1 本/果であり、本種の毬果から離脱する目安の 25 本/果を超えている（図 3）。

〔※ヒノキ毬果上の口針鞘数が 1 果当たり 25 本を超えると、果樹カメムシ類がヒノキ毬果から離脱する傾向にあり、園地への飛来の可能性が高くなる。〕

3) 果樹園内への飛来状況

(1) 県内の果樹園への飛来が 9 月上旬頃から確認されている。

4) 気象要因

(1) 九州北部地方の向こう 1 ヶ月の気象予報（福岡管区气象台 9 月 7 日発表）では、気温が平年より高いと予想され、本虫の発生に好適な条件となっている。

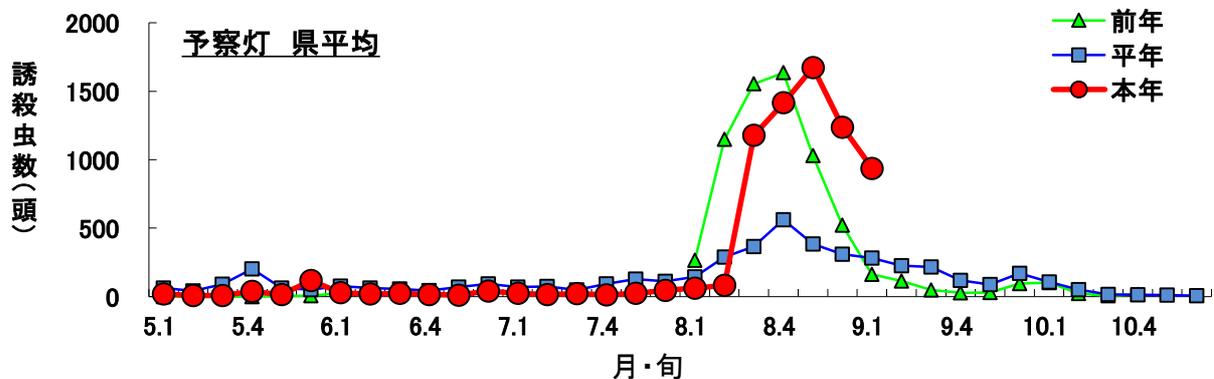


図 1 予察灯での果樹カメムシ類の誘殺虫数の推移（県内 2 地点の平均）

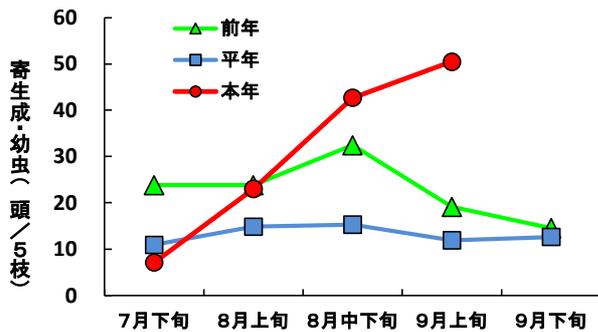


図2 ヒノキ樹上での果樹カメムシ類の寄生数

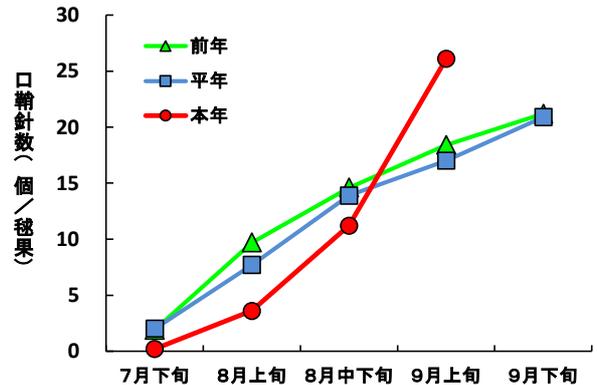


図3 ヒノキ穂果上の果樹カメムシ類による口針数

3. 防除上注意すべき事項

- 1) 飛来状況は、地域、園地、園地内の場所によって異なるため、園内外をよく観察し、早期発見に努める。
- 2) 飛来が確認されたら、合成ピレスロイド系薬剤又はネオニコチノイド系薬剤で直ちに防除を行う。両系統の薬剤の残効期間は10～15日程度である。なお、ネオニコチノイド系薬剤は、30～50 mm程度の降雨で防除効果が低下するため、散布後に同雨量以上の雨が降ったら再散布する。
- 3) 本種は、夜行性で日没直後からしばらくの間に最も盛んに飛翔し園内に侵入する。そのため、果樹園に侵入する直前の夕方に薬剤を散布すると効果が高い。また、地域全体で一斉防除を行うと高い効果が得られる。
- 4) 施設栽培では、開口部に防虫ネット（4ミリ以下）を設置する。
- 5) 今後の発生状況は当センターが発表する各種情報及びホームページを参考にし、防除対策の詳細は「佐賀県病害虫防除のてびき」を参照する。

○佐賀県病害虫防除のてびき掲載アドレス

<https://www.pref.saga.lg.jp/kiji00321928/index.html>



連絡先：佐賀県農業技術防除センター 病害虫防除部

〒840 - 2205 佐賀市川副町南里 1088

TEL (0952)45 - 8153 FAX (0952)45 - 5085

Mail nougyougijutsu@pref.saga.lg.jp

ホームページアドレス <https://www.pref.saga.lg.jp/kiji00321899/index.html>

